

○8番（櫻井 茂君） 8番・櫻井 茂です。よろしくお願いします。

通告に従いまして一問一答方式で質問させていただきます。

まず、質問の1点目です。道路整備と維持管理についてお尋ねをしております。

茨城県の道路延長距離は北海道に次いで全国2位であります。人口当たりの車の所有率は全国4位、ただし、舗装率は68.1%で全国45位という状況になっております。関東平野に位置し、可住地面積が広いことありまして道路延長距離が長いいため、道路にかかる予算が十分に回らない部分もあるのだろうという思いがしております。

石岡市で見ますと、「統計いしおか」によれば、令和4年4月の石岡市の道路延長は1,971キロメートル、改良率38.3%、舗装率60.6%であります。市民生活、経済活動、防災等の面から、道路が安全かつ円滑に走行できるよう整備と維持管理について質問をしてみたいと思います。

1点目です。維持管理についてお尋ねをしております。道路の維持管理に当たる組織体制についてお尋ねをいたします。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。道路の維持管理を所管しております道路建設課の組織体制としましては、本庁11名、支所8名、合計19名となっております。本庁で石岡地区を、支所で八郷地区をそれぞれ担当しております。また、会計年度任用職員1名を採用し、道路の安全と維持管理のため、パトロールを行っております。そのほか、市内郵便局との包括連携に基づき、道路に危険箇所があった場合には情報提供をいただくこととなっております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） この中で道路パトロール員につきましては1人で対応しているということになっております。安全性や迅速性の観点から考えますと最低でも2名体制で本来道路パトロールの体制を組むべきではないかと思っております。なぜ1人なのか、理由をお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。道路パトロール員につきましては、平成30年度までは2名体制でパトロールを実施しておりましたが、人員が確保できない状況から、令和元年度からは1名体制でパトロールを実施しており、現在はパトロールを中心とした簡易的な作業を行っております。議員ご指摘のとおり、道路上での補修作業であるため、安全性や迅速性等が求められますことから、次年度以降、2名体制でのパトロール実施に向けて予算及び人員確保に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） この件に関しましては、平成30年当時に道路パトロール員は2名体制で動いていたところがお一人辞められたということが会議録で確認できております。このときも、辞められた後の予算特別委員会ですか、そちらで1名では安全性の確保が難しいんじゃないかということで先輩議員のほうからも質問が出ているようであります。これに対して執行部からも安全性の確保に向けてということで2名体制で動きたいんだよというような答弁が出ておりますが、残念ながら、この5年間、その対応は実現されておられません。人員の確保についてこれまでどのような対応をしてきたのか、改めてお尋ねをしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。パトロール員の募集につきましては、総務課を通じまして会計年度任用職員として登録のあった方の中から個別に面談等を行うとともに、そのほか元職員で道路建設課経験者などへ声をかけるなどを行い、人員の確保に取り組んできたところではございましたが、なかなか要件に合致する人材が見つかりませんでした。今後につきましては、市のホームページやハローワークなどを通じまして広く求人募集を行い、パトロール員の人員確保に努めたいと考えております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 私も元市の職員、そして、財政課勤務の者として言わせていただければ、予算がついていないのに人員の確保はできないんですね。部長の答弁は非常に苦しい答弁だということで私も理解はしております。これ、多分、市長査定にも上がっていないんじゃないかと思えますね。市長も知らなかったんじゃないかと思えますけれども、パトロール員1人で道路の補修を、簡易な補修とはいえ1人で対応させるのは安全性にやはり欠けると思えます。しっかりその辺は財政当局も予算の内容、要求課からの要望を確認して精査していただきたいと思えます。ここは要望にとどめさせていただきます。

次に、市民要望への対応をお尋ねしてまいります。

道路の補修につきましては、どのような形で市民から担当課のほうに依頼があり、その対応はどのようにされているのか。要望件数とこれに対する実績について、昨年度のデータがあれば併せてご説明をいただきたいと思えます。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。市内各地区からは、毎年、数多くの道路等補修要望がございます。電話や道路建設課窓口などにおきまして市民からの要望を受け、まずは現地の状況を確認し、状況に応じて直営もしくは業者へ依頼する等の対応を行っているところでございます。

令和4年度の補修等要望件数としましては960件で、うち対応実績としましては

741件となっております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） このたびの4月の選挙で、私も含め、各議員が市内を選挙カー、あるいはいろいろな手法で回られているはずであります。どの議員も同じ見解を多分持たれていると思うんですけれども、ひび割れや道路の凸凹が非常に目立つと。歩道もしかりであります。今答弁された数字から見ても市民要望にとても手が回らない状況ではないかという感じがいたしております。特に小学校の近辺、私が歩いて特に感じたのは南小周辺、杉並小周辺、府中小周辺、通学路に関してはもう少ししっかりと手を入れていただければと思っております。この辺は道路パトロール員の充実と併せて、重点的に巡回、整備をお願いできればと思いますので、よろしく願いいたします。

最近、台風2号の大雨、こちらの被害も大分大きかったということで聞いております。こちらの道路の補修依頼や排水路改修、土留め等の依頼が多分多数入っているんだらうと思っておりますので、この状況を確認させていただきます。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。先日の台風2号の大雨被害によります道路等補修依頼につきましては、パトロールによる確認と要望、依頼を合わせまして148件確認してございます。内訳としましては、石岡地区が98件、八郷地区が50件となっております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 修繕依頼が多数入っているようですので、危険箇所の把握、それと早急な修繕をお願いしたいと思っております。

次に、3点目、予防保全型の道路管理対応についてお尋ねをしております。

橋梁につきましては長寿命化計画が策定されておりまして、予防保全型の維持管理が進んでいるようでありますけれども、道路につきましては冒頭申し上げたように総延長も非常に長くて、人員も限られているということもありまして、計画的なメンテナンスというよりは、市民からの修繕要望であったり、道路パトロール員のほうからの通報、あるいは郵便局員ですか、先ほど協力体制にあるというようなこともありましたので、そういった対応になっているとは思いますが、災害等で被害が予測されるような道路はもう把握されていると思っておりますので、優先度を高めてぜひ対応していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。議員ご指摘のとおり、橋梁の維持管理につきましては、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、劣化、損傷が進行する前に対策を行う予防保全型の維持管理に取り組んでおり、計画的な定期点検、修繕工事を実施しているところでございます。

道路の維持管理につきましては、一部の幹線道路におきまして舗装の平坦性やひび割れなどについて路面性状基礎調査を行い、劣化、損傷等が進行する前に計画的に舗装補修工事を実施している箇所もございます。しかしながら、市道総延長1,971キロメートルを所管しており、また、予算、人員等も限られていることから、劣化、損傷等が進行してから修繕を行う事後保全型の維持管理が多い状況ではございます。

災害等によって被害が予想される箇所につきましては、日頃実施しております道路パトロール等の情報や過去の災害発生状況などを踏まえ、事前に土のうを設置したり、排水、側溝等の清掃を実施するなど、予防的な対策を講じておりますが、引き続き発生を未然に防止できるよう、より適切な対応に努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 本来であれば、予防保全型の道路管理というのが必要になると思います。交通量の問題であったり、いろいろなところの部分を含めて職員の配置体制の問題もあって実効性が石岡の場合はどうしても低くなってしまう可能性がありますので、そこを求めるつもりはございませんけれども、せめて優先度を持って、どこを先にやるべきか、あるいはここはもうそろそろ危ないよというところであれば見回りを増やすとか、いろいろやっていただければと思いますので、よろしく願いをいたします。

質問の2つ目です。狹隘道路の拡幅についてお尋ねをしてまいります。

先ほど申し上げましたように、今回、市議選で市内全体を歩きました。選挙カーで歩いておられますと、石岡市内の狹隘道路、4年に1度、確実に実感するんですが、今回もまた相変わらず狭いなというのが現実であります。市民の多くの方も意見交換していく中で道路を広げてほしいという意見が非常に多かったわけであります。この狹隘道路の拡幅について石岡市はどのように事業を進めているのか、確認の意味で改めてお尋ねをしてまいりたいと思います。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。狹隘道路の拡幅整備につきましては、地区からの要望をいただいた路線を拡幅事業路線として計画し、整備を行っております。拡幅整備には土地所有者に拡幅用地のご協力をいただく必要があるため、地域の方々のご理解とご協力をいただきながら拡幅整備を進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 石岡市の進め方がなかなか思うように進まない。当然この進め方の受動的な体制なのか、能動的なのかという目線でいきますと、目標値を設定したり、本来であれば前向きな取組をしなきゃいけないんですけれども、地権者との

絡みもありますので、石岡市としては、現状、受動的なのか能動的なのかといえば、どのような形になるか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。基本的には地区からの要望に基づく拡幅整備となっておりますので、受動的ということになるかと思えます。また、目標値等につきましては特に設定はしてございません。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 今後の拡幅整備への考え方についてお尋ねしたいと思いますけれども、本当であれば一定の予算を振り分けて、その予算、あるいはメートル、目標値を設定して積極的に対応していかないと、いつまでたっても変わらないと思えます。都市計画区域の撤廃の質問を3月の定例会でやりましたけれども、一方では市街地への人口増を目指してコンパクトシティー化をしようと言っておきながら、住みたいと思うまちになっていないんですね。非常に道が狭くて、新たにうちを建てようとしたときにやっぱり住環境がいいか悪いかというのは大きな関心の1つでありますので、そういった意味でも、コンパクトシティーを目指すのであれば、それなりのその理屈立ての根拠となる拡幅整備、これもやっていただきたいと思うんですが、今後、これからの拡幅整備にどのような視点を持って当たるのか、お尋ねしてまいりたいと思えます。

○議長（関口忠男君） 都市建設部長・櫻井君。

○都市建設部長（櫻井正洋君） ご答弁申し上げます。狭隘道路の拡幅整備につきましては、各自治体の事情に合った整備手法で拡幅整備に取り組んでいる事例がございます。今後は先進地事例を調査し、よりよい整備手法を研究しながら、本市に合った狭隘道路の拡幅整備に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 市長にお尋ねいたしますけれども、現状、受動的な対応ということですから受け身ですね。市民から要望があったことについて対応していくということで、積極的な投資という意味では石岡市側はやっていないという状況であります。

実は、たまたま今回いろいろな会議録を見る中で町田市さんの会議録を見ておりましたら、というのは、かつて学生時代、町田の近くに私は住んでおりましたので町田の状況も分かっているんですが、30年間にわたって毎年1億円ずつ道の拡幅に投資をしてきたというような発言をされている議員さんがおられました。当然、1億円というその予算が町田という石岡の3倍、4倍のまちですから、それに比べれば石岡の投入予算が幾らなのかとなってしまいうんですが、ただ、その姿勢が、やっていくという姿勢を10年、20年、30年と続けることによって町が変わると。実際変わったというような発言をその議員さんはされていましたが、そういった姿勢をつく

っていかないと、多分30年後も石岡の狭い狭隘道路は変わらず残っているのかなという気がします。石岡駅から1キロ圏、歩いて10分程度の範囲内で狭隘道路がもう密集しているわけですね。そういったところをどうしていくのかということも含めて、市長のお考えがあればお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えいたします。狭隘道路の拡幅整備につきましては、防災、減災、歩行者の安全確保、交通の利便性向上など、様々な観点から、また、これからの暮らしやすいまちづくりを進める上で大変重要な課題であると認識してございます。道路は安全で安心な市民生活を支える大変重要な役割を担っていることから、議員ご提案の先進事例などを参考にしながら、当市に合った効率的、効果的な事業をまずはスタートできる、まずはそういうことを一歩踏み出せるような事業が実施できますよう、担当部署へ指示をしてまいりたいと考えてございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） いずれにしましても、厳しい財政状況の中で予算が果たして振り向けられるのかという現実的な問題もございますので、バランスを取りながらやっていただくしかないんですが、せめて狭隘道路の補助制度等の説明を住民に積極的にしていただいて、お年寄りが1人で住んで空き家になっているというような状況もありますし、耕作放棄地、雑種地も増えているようでありますので、そういったところをどんどん、いびつな道路でもいいと思いますよ。やっていかないと、きれいな道路の完成形で目指して一気にやるんだなんていうのは多分無理だと思います。できるところから始めて20年後、30年後に見たら道路が広がっていたと、それでもいいと思いますので、ぜひ対応をお願いしたいと思います。

次の質問に入ります。観光力アップに向けた取組についてであります。

石岡市は首都圏から約1時間の距離にありまして、筑波山や霞ヶ浦の自然に恵まれ、実り豊かな地域として古くより歴史を紡いでまいりました。本市の持つ豊かな自然、豊富な農産物、歴史的資産を生かし、観光力をアップさせ、地域活性化にどのように結びつけていくのかについてお尋ねをしてまいります。

まず、質問の1です。活用している情報発信ツール、いろいろな形で情報発信ツールを当然やられているわけではありますが、これらの活用方法について、現状についてお尋ねしてまいりたいと思います。

石岡市では、公式ホームページ、あるいはSNS等の情報発信ツールを活用し、各種情報を広報しています。これらの運用目的、当然、目的が定められているはずでありますので、そして、どのような情報を誰に対して発信しているのか、これら掲載情報は誰が選択、掲載し、その効果のデータ分析をしているのか、概要をお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 産業戦略部長・塩畑君。

○産業戦略部長（塩畑浩行君） ご答弁申し上げます。現在の石岡市における情報発信ツールの活用状況につきましては、本年4月に策定をいたしましたシティプロモ-

ション指針に基づきまして、市公式ホームページ、観光協会ホームページ、メールマガジン、LINEやフェイスブック、ツイッターなどの各種公式SNS、また、官民間問わず利活用が可能な「まるっと」を昨年度より公開し、市民のみならず、関係人口増加を目指し、情報発信に努めているところでございます。情報発信先といたしましては、季節の観光情報を市内外の方々に発信しているところでございます。

次に、掲載データの選択及びデータの分析でございますが、観光に関する情報の選択につきましては産業戦略部で選択をしており、データ分析については、公式ホームページにつきましては各ページの閲覧件数だけでなく、どこからホームページにたどり着いたか、どの地域からアクセスしているかなどの確認が可能となっておりますが、観光的な戦略の面には生かし切れていない状況でございます。

また、観光協会のホームページ等につきましては、データ等の分析は行っていない状況となっております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） ご答弁いただきましたように、石岡市のホームページ、観光協会のホームページ、石岡市の情報をまとめたポータルサイト「まるっと」、こちらについてもご説明いただきました。また、フェイスブックでは石岡市観光協会、「いしおかファン」というページがあるようであります。こちらにイベント関係の紹介、市民向けの情報も掲載され、また、同様に石岡市公式LINEが目につくところであります。いろいろな情報発信ツールを利用して市の広報活動、観光情報の提供をされておりますが、その効果の分析までは現状至っていないというような答弁をいただきました。

これらの情報発信ツールなんですが、その相互の関係性、こちらをお尋ねしたいと思います。当然いろいろな発信ツールを使っているのであれば、お互いが情報の連携、もしくはお互いの発信ツールの効果を高めるような関係性を持たないと意味がありませんので、こちらの情報発信ツールの相互の関係性、あるいは意図を持って運用されているのかについてお尋ねをいたします。

○議長（関口忠男君） 産業戦略部長・塩畑君。

○産業戦略部長（塩畑浩行君） ご答弁申し上げます。情報発信ツール、相互の関係性についてでございますが、市公式ホームページから観光情報を観光協会ホームページ等に誘導することでより深い情報提供が可能となっておりますが、各ツールにつきましてはおのおのが情報を発信している状況となっております。現在、市公式ホームページから観光協会ホームページへ連携しておりますが、今後につきましては、そこで拾えない情報につきましては「まるっと」で検索でき、観光力アップに資する連携ができるようなよりよい仕組みづくりについて調査、研究してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 答弁を伺いますと、情報発信ツールの連携はあまり取れていないというか、意識されていないような状況なのかなと受け止めました。

公式ホームページに連動している「まるっと」、これは新しいサイトですけども、答弁がありましたので申し上げますけど、この「まるっと」は広告ばかりが目立つサイトですね。その理由の1つとしては、掲載情報は石岡市が情報は提供しますが、ホームページの上は民間事業者に委託して、民間事業者は広告収入をもってそのサイトを運営するという流れになっているようですが、この無料と引換えの丸投げ契約につきましては非常に疑問を持たざるを得ません。掲載されている石岡市の情報を市の担当者がきちっとチェックしているようにはとても私は思えません。最悪なのは、特に目を引くデザイン、レイアウトでもない上に貴重な自主財源を自ら失っていることに気がついていないことです。できれば次の契約更新は行わず、市が広告収入を確保する検討をぜひお願いしたいと思います。自主財源の確保等、いろいろな場面で我々議員も質問をしますし、執行部も自主財源の確保に努力しますと言っているんですけど、「まるっと」の広告収入、全て持っていかれちゃっているんですよ。それがすばらしいホームページで、観光情報でものすごい効果を発揮している、もしくは石岡市のイベント情報、市民にお知らせする情報でものすごい役割を果たしているというなら分かるんですけど、そのようにとても見えないサイトです。であるならば、同じレベルのものだったら多分できますよ。その広告収入を石岡市がもらうべき話ですから、本来であれば。数百万の広告収入を失っているということに気づいていただければと思います。この件については答弁は要りません。ご検討をよろしく願います。

次の質問に入ります。

新たな魅力アップへの取組ということでお尋ねしてまいりますけれども、日本における携帯電話の保有率は13歳から59歳で90%以上という統計データがございます。その中でスマートフォンですけども、この所有率が2023年4月現在で96.3%だそうです。誰もがスマートフォンを持ち、デジタル情報の受信、発信が可能な社会環境となっております。

石岡市では、この携帯電話を利用したアプリとして石岡のおまつりの際に山車・獅子位置情報配信システムを提供しており、これはすこぶる評判がいいですね。お祭りに参加する側、見に来られる観光客の方からも今どこに山車・獅子がいるかというのがすぐわかりますので、これはすこぶる評価がいいです。携帯電話はアプリのシステムに利用者データや移動の履歴などを収集する仕組みを組み込むことも可能であります。例えば、携帯アプリで石岡の古い地図、それか、もしくはオリジナルの地図、例えば石岡散策マップというのを観光課のほうで出していると思いますけれども、町なかの登録文化財、これらを利用して行きたいポイントまでの道案内をする仕組み、それに併せて、その周辺の飲食店の情報を提供することなどで石岡に来る方の満足度がより高まるのではないかと思います。まず、ここまでは発信ですね。

一方で、携帯アプリを使うメリットとしましては行政側にも当然ありまして、先ほど触れましたように利用者情報を取得することができるんですね。この方、訪れた方々、アプリを使っている方々が今日どこの施設にどのようなルートで回ったのか、



これらをデータ化して収集できますので、このデータを分析することで新たな観光施策も当然考えられると思います。

ここで、観光力を高めるための携帯アプリの活用について考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 産業戦略部長・塩畑君。

○産業戦略部長（塩畑浩行君） ご答弁申し上げます。議員おっしゃるとおり、デジタル化の進展は観光分野においても例外ではなく、多くの観光客が情報収集にウェブを活用する時代となっております。そういった中で、石岡のおまつりにおいて山車・獅子位置情報配信システムを使用し、情報を発信しており、議員のおっしゃるとおり、利用者の方からは好評価をいただいているところでございます。

本年度の事業といたしまして、ルートの表示やキーワード検索、アクセスログの分析が可能なデジタルマップの試験導入を計画しているところでございます。これによって旅行者の利便性を図ってまいるとともに、これまでのような経験則ではなく、データによる市場分析を施策に反映させまして観光分野の活性化を図ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） デジタルマップの試験導入を計画しているという答弁がございました。そういったところを受けまして提案させていただきましても、次の質問、行動的な事業者の連携組織結成についてであります。

これは何が言いたいかといいますと、地域貢献団体として活動されている青年会議所、あるいは商工会議所の青年部の方々のような行動力のある方、さらに加えて、日頃から社会貢献でまちおこし事業に参加されているグループの方がたくさんおられます。非常に行動力のある方々ですね。しっかりと自らの事業も成功させている方々が多いわけでありましても、当然、経済感覚に優れて石岡市を愛してやまない方々であります。そういった方々から意見を聞き、集約できる協議会を設置して、その方々の意見を先ほど申し上げたような携帯アプリの仕組みの中に反映させられないかということであります。観光行政の展開がどうしても市職員ベースで動きますと閉鎖的な考えでしか動いていないんじゃないかというのが目立ちます。市民団体で活動されている方々はものすごいいろいろな意見を持っているんですよね。そういった方々の意見を吸収できる、そういった組織をぜひつくっていただきたいと思うんですが、お考えを伺えればと思います。

○議長（関口忠男君） 産業戦略部長・塩畑君。

○産業戦略部長（塩畑浩行君） ご答弁申し上げます。議員おっしゃるとおり、青年会議所や商工会議所青年部などの地域貢献団体の方々からご意見をいただくことは重要であると考えてございます。今後につきましては、新たな組織についてどのような形が最良なのか、他市の事例等を参考に調査、研究してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） これまで、いろんな審議会とか協議会でそうした方々の一部はメンバーとして協力いただいている部分はあると思うんですけども、いずれも市のやろうとしている事業に対するものに対して、どちらかという、狭い範囲で意見を求めるみたいな形のもので多くて、自由な発想に基づいて新たな事業展開をするということは少なかったんじゃないかと思います。ある意味、縦割りの協議会の中での参加が多かったと。今回はそういったことでなくて、垣根を取っ払って、いろいろなジャンルの方が集まるコンソーシアム的な協議会をぜひつくっていただければと思っています。先ほど、他市の事例というような話もありましたけれども、他市の事例なんかを調査する必要はないんですよ。市長が判断すればできる内容ですから、最初から完成形を目指さなくてもいいので、まず取り組むということが大事だと思います。

皆さんもお聞きだと思いますけれども、まちおこしには若者、ばか者、よそ者というよく言われる話があると思います。その言葉のままだと町の活性化には現実には結びつきませんから、その意味を置き換えて考えてみると、例えば若者は若い人というよりは行動力にあふれる人、ばか者は柔軟な発想力を持つ人、よそ者は石岡市の状況を俯瞰できる人というように読み替えていただくと分かりやすいのではないかと思います。行動力にあふれる人、柔軟な発想力を持つ人、石岡市を俯瞰できる人たちによる自由闊達な意見交換の場の創設であります。その中心的な役割を果たすのが先ほど申し上げたように石岡青年会議所のメンバーやそのOB、商工会議所青年部、あるいは地域貢献活動をされている団体の方々、社会的に責任のある立場の方が言い出しっぺになることによって、そういう方々は自分の言葉に責任を持ちますから、事業展開にきっと協力していただけるのではないかと思います。既に各分野で活躍、活動されている方々が集うことでお互いの情報交換が進み、これまで以上に活動の幅を広げていただき、石岡市の活性化に向けた成果を特に観光面からスタートさせていただいて成果を発揮させていただく、そうした場が必要だろうと思います。これにつきましては市長の考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えいたします。議員おっしゃるとおり、自由な発想、あるいは経済感覚に優れた石岡市を愛してやまない行動力のある若い方々、私も市長に就任しまして、そういった方々がいる、あるいはそういうグループがあるということは認識しております。そういう新しい芽というか、そういう若い力ということが大事だなと思います。本当にそういう方々の意見を聞いていくことが重要であると考えてございます。

議員からご提案ありました新たな組織の立ち上げにつきましては、この石岡ならではの戦略的な観光スタイルといった、そういったものを視野に入れながら様々な意見を結集してまいりたいと考えております。本年から産業戦略部内に産業戦略企画監というものを設置してございます。そういった組織、あるいはそういった連携を図れる

ような組織体系の中で新しい意見、そして、そういう新しい力を生かすような仕組みづくりに取り組んでまいりたいと考えてございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 戦略という言葉が市長から出ましたけれども、ぜひ、さすがに戦略部の名前にふさわしいという対応をお願いしたいと思います。

次の質問に入ります。ここでまた戦略という言葉を使いますけれども、戦略的なふるさと納税の取組についてであります。

ふるさと納税によりまして財源を確保し、まちづくりを進めている自治体がメディアで話題となっております。残念ながら、石岡市のふるさと納税額は増えておりません。2008年度の制度創設時の、これは全国の話ですけれども、全国での寄附総額が81億円だったものが2021年度では総額8,302億円まで膨らんでおり、今や1兆円に届く勢いとなっております。こうした状況を踏まえまして、全国の自治体がふるさと納税寄附額のアップに向けて積極的に取り組んでおります。石岡市の納税額アップに向けた取組について伺ってまいりたいと思います。

1点目です。ふるさと納税の取組状況でありますけれども、石岡市のふるさと納税の寄附額についてのこれまでの変遷、金額の推移、これをお尋ねしてまいりたいと思います。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） ご答弁申し上げます。これまでのふるさと応援寄附金につきまして、平成20年度から取組が始まりまして、議員おっしゃるとおり、15年が経過してございます。近年におけます寄附額の推移でございますが、平成29年度は1万9,541件で2億4,879万4,629円、平成30年度は8,489件で1億2,311万1,608円、令和元年度は1万890件で1億5,314万3,784円、令和2年度は1万1,795件で1億6,271万円、令和3年度は1万2,329件で1億6,626万5,000円、令和4年度につきましては9,985件で1億4,402万9,000円でございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） ありがとうございます。

次に、返礼品選定に対する国の考え方、これは大分考え方も変更されているようでもありますけれども、これに基づいて石岡市ではどのような考え方に基づいて返礼品を選定しているのか、お尋ねしたいと思います。

返礼品につきましては、寄附の獲得競争が激しくなりまして、制度の趣旨を逸脱するような事例も出たということで規制が厳しくなった経過がございます。返礼品の選定基準について国の考え方を説明していただき、これに基づき、石岡市は返礼品をどのように選定しているのか、また、その際、返礼品の製造事業者とどのような協議を経て石岡市は契約しているのか、お尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） 返礼品選定の考え方等につきましてご答弁申し上げます。返礼品の選定に当たりましては、国におきまして地場産品基準が定められております。基準の1つ目として、市内において原材料の主要な部分が生産されたものであること、基準の2つ目といたしまして、市内において製造、加工、その他の工程のうち主要な部分を行うことにより相応の付加価値が生じているもの、基準の3つ目といたしまして、返礼品と返礼品との間に関連性のあるものを併せて提供するものであって、当該返礼品が主要な部分を占めるものなどの基準がございます。

当市におきましては、各返礼品事業者から返礼品提供申込書を受けまして、この地場産品基準を満たしているか照らし合わせまして返礼品の採用決定を行ってまいります。

なお、返礼品事業者との協議でございますが、事業の実施に当たりましては、事前に国の地場産品基準をご説明いたしまして事業の趣旨にご理解をいただいております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 次に、仲介のポータルサイト利用についてお尋ねをいたします。

どのような返礼品を用意しているのかなど、多くの人に知っていただかないと話になりませんので、寄附の意思を固めていただく際に、広報窓口として、ふるさと納税ポータルサイトが幾つも運営されております。石岡市が契約している事業者数、寄附手続などが成立した際の手数料、当然ポータルサイトに掲載していますので、成功報酬ということでの手数料を支払わなければならないわけでありまして、また、その事業者を選んでいる理由、こちらをお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） 仲介ポータルサイトにつきましてご答弁申し上げます。現在、石岡市の申込みポータルサイトは、ふるさとチョイス、a u P a y、セゾン、さとふるの4つでございます。手数料につきましては、ふるさとチョイス、a u P a y、セゾンが10%、さとふるが12%でございます。この事業者を選んだ理由でございますが、a u P a yとセゾンにつきましては、ふるさとチョイスが業務提携を行ったことにより追加となったものでございます。さとふるにつきましては、昨年度になりますが、プロポーザルにより事業提案を行って選定したものでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） そのポータルサイトに掲載情報を載せていただくということが広報の窓口になりますので、できれば数多く増やしていただけるのが一番いいと思います。ふるさと納税寄附額が数十億、100億円に近いような自治体の多くは10以上のサイトと契約しているんですね。石岡は4つというような話もございましたけれども、増やせるならばどんどん増やしたほうが広告効果は高まりますので、ぜひ

ご検討いただきたいと思います。

手数料の問題もあっていろいろ難しいところがあるとは思いますが、登録するだけでお金を取られてしまうところもあるのかどうかちょっと分かりません。お金がかからないのであればどんどん登録して、成功報酬で払うという仕組みの中で、ただ、この成功報酬も高くては話になりませんので、その辺が難しいとは思いますが、ぜひご検討いただきたいと思います。

次に、寄附金の用途についてであります。これにつきましては、昨日、先輩議員のほうからも質問が出ておりまして、4つの区分から用途を、使い道を選んでいるということが分かりましたので、結構です。

ただ、再質問させていただくんですが、このふるさと納税による寄附、経費としての返礼品代が当然かかります。また、送料、あと、ポータルサイトの先ほど言った成功報酬である手数料、これと石岡市から他自治体に出ていくふるさと納税分の税額、これは差し引いて考える必要があります。ふるさと納税寄附額全額が自主財源になっているわけではありませぬので、この点をどのように考えて事業に財源を充てているのか、お伺いしたいと思います。

また、昨年度のふるさと納税における寄附額と経費に当たる額、差引きの自主財源についても併せてご答弁いただきたいと思います。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） ご答弁申し上げます。まず初めに、当市が頂きましたふるさと応援寄附金につきましては、当市におきましては、これまで寄附者のご意向に沿うよう一旦基金に全額を積みまして翌年度の事業に充当しているところでございます。

次に、令和3年度で申し上げますと、令和3年度の実績となりますが、歳入の寄附額は1億6,626万5,000円、歳出のふるさと応援寄附の経費は令和3年度決算額で8,920万3,841円、差引き7,706万1,159円でございます。

また、石岡市内に住所を有する方が他自治体へふるさと納税をした場合における令和3年度の住民税の控除額が7,417万8,000円でございますが、その75%が普通交付税で措置されますので、残りの25%の住民税の減収分といたしましては1,854万4,500円となります。この分を先ほどの歳入歳出の差引き7,706万1,159円から住民税減収分の1,854万4,500円を差し引き、自主財源の残額といたしましては5,851万6,659円となります。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 令和3年度の実績、ご説明いただきました。ふるさと寄附額が1億6,626万5,000円、これに対しまして経費が8,920万3,841円ということでありまして、経費率で見ますと53.65%に計算されます。実は2019年6月以降、総務省の通達では返礼品は寄附額の30%を上限、これは返礼品の額ですね。加えて、経費総額は50%を上限とすることが通達されています。ただいま答

弁いただいた石岡市の経費総額を計算すると53.65%となりますので50%を超えておりますが、これについては大丈夫なんでしょうか。お尋ねします。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） ご答弁申し上げます。ふるさと応援寄附金における総務省の経費総額5割以下の基準でございますが、ふるさと応援寄附金を頂いた方に対して返礼品を送付する場合がございますが、総務省の基準では、寄附金の募集に要する費用の合計額が寄附金受領額の合計額の100分の50に相当する金額以下であることが定められております。ただいま議員ご指摘いただいたとおり、令和3年度の実績で申し上げますと、令和3年度においては50%を超えている結果となりまして、総務省から令和4年9月22日付で寄附金受領の5割以下となるよう適切に対応するよう通知があったところでございます。

令和3年度、50%を超えた主な理由といたしましては、例えば傷みやすいブドウなどを発送する際にチルド発送をしておりますが、その年度によって異なりますが、ブドウを希望される方が予想以上に多かったことなどによりまして送料が増えたことなどが要因でございました。令和4年度におきましては、この総務省の5割基準に収まるよう注視しながら事務を進めまして5割以下となっております。今後におきましても、しっかりこの総務省の基準を遵守しまして適切な運用を図ってまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 果物の傷みという話が今ございましたけど、私もかつて日直をやっていたときにまさにこの電話を受けたことがございます。石岡からふるさと納税で、あのときの果物の種類は忘れてしまいましたけど、送られてきたが、傷んでいるんだというクレームの電話だったです。果物はどうしてもそれがあるんですよね。完熟したものを送ってしまいますと、食べるまでの間に期間がありますから傷みが出てしまうということで、その負担が農家のほうにもかかってしまう。当然、職員のほうにもその負担が行きますので、その辺は十分注意しなきゃいけませんから、その分、送料が高まる。ただ、一方で、石岡にとって有利なのは、50%を総務省が設定していますが、石岡は首都圏に近いんですよね。そういった意味では送料が安いという判断もできます。これが首都圏から離れた地域の自治体ですと送料にお金を取られてしまって、50%をクリアするのが大変だという話もあるようです。そういったメリットを生かしながら、ぜひふるさと納税の増額に向けて努力していただければと思っております。

ここで、ふるさと納税寄附額の戦略的な取組についてお尋ねするわけですが、茨城県内ですと境町が非常に有名です。2021年度の寄附額が48億8,000万、5年連続関東1位、県内では7年連続トップというようなことで、すごいコマース効果もそこでも発揮しています。その事業展開は返礼品の開発に向けて積極的に投資を行っているということですね。ここが石岡市とは違います。石岡市というか、ほぼほぼ多くの自治体が投資していないんですけど、投資をしている中での成功

例と言えるかもしれません。

返礼品の選定、開発、どのように行っていくかということですが、これも昨日の一般質問で先輩議員がされていて、どのようなことをやっているんだということに対する答弁は、アプリを使った寄附として市内のゴルフ場でのプレー費ですか、こちらを返礼品に設定したと。プレー後に精算する際にそこで寄附行為ができるんだよというようなことで次のプレー費を確保できるというようなお話だったと思います。2つ目として果物の先行予約、時期が来る前に先に予約ができますというような仕組みをつくったということだったんですが、残念ながらとても戦略的とはちょっと思えない状況ですね。

返礼品の選定、開発についてお尋ねしますが、例えがいいかどうかはちょっと別にして、孫子の兵法に例えれば、「敵を知り己を知れば百戦危うからず」という格言があります。敵ではありませんけれども、ライバルとなる先進自治体、茨城県でいけば境町などは非常にいい見本というか、先例だと思います。その調査を石岡市ではこれまでどのように行ってきたのか。先進事例、成功事例が分かっていなくて成功に持っていくというのはなかなか大変だと思いますので、その辺、調査をどのように行ってきたのか、お尋ねします。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） ご答弁申し上げます。ただいま議員さんからご質問のありました境町ですが、実際に直接の視察の調査などは行ってはございませんが、情報としては、ふるさと納税に関する企画とか運営を主体とする法人を立ち上げるなどしまして寄附の実績を伸ばしていることを把握してございます。また、財務部といたしましては、これまで寄附の実績を伸ばしている市町村の担当者と直接情報を交換したり、昨年度になりますが、リモート会議に参加しまして全国の担当者と情報交換をするなど、寄附額を増やす先進的な取組事例を調査してまいったところでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 境町ですけれども、この境町では県内の他市町村にもふるさと納税のノウハウを伝授しているというようなことが報道されております。これまでに、つくばみらい市、大洗町、八千代町への財源確保のコツを伝授しているということでもあります。県内1位の座を走り続けるこの境町ですけれども、自分たちだけが納税の恩恵を受けるのではなく、県内の各自治体にレクチャーすることで県全体の活性化を図りたいと町長が発言しているということで、余裕しゃくしゃくという感じで受け止めておりますけれども、ぜひ調査していただいて、石岡市でもそのノウハウ、これをどう生かすか、しっかり取り組んでいただければと思っております。

2番目の広報の充実についてお尋ねをいたします。

戦略的なふるさと納税の額のアップに向けて、広報の充実は必須だと思います。現状、石岡市の広報はどのような対応されているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） ご答弁申し上げます。ふるさと応援寄附金の広報につきましては、首都圏など大都市部の方々に向けまして、新聞の折り込みチラシを年2回となりますが、153万部、配布を行っております。また、最近では、パソコンやスマートフォンといった電子機器によって寄附されることが多いことから、ヤフーやグーグルのバナー広告も実施しておるところでございます。

また、産業プロモーション課とタイアップしまして、東京方面へ出向きまして石岡市の観光PRを行う際に管財課の職員も同行いたしまして、石岡市の観光資源の紹介と併せて、ふるさと応援寄附金のPRなどを行いまして、直接お一人お一人に石岡市の魅力を訴えかけて、少しでも給付額の増額につながればといった取組なども複数回行っております。今後につきましては、より効果的な広報につきまして調査、研究などをしまして、充実を図ってまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） この広報ですが、ホームページを見ていただくともうすぐ分かる話なんですけど、石岡市の返礼品紹介の写真、皆さん、タブレットを持っているのでぜひ見ていただきたいんですけど、いわゆる映える写真に全くなっていません。食品なら、おいしそうな写真、新鮮そうに見える写真、ぜひ食べたいと思わせるような写真、それと説明、これが全く触手が動かないというか、非常に残念な状況です。見てみればすぐ分かります。全国ランキング上位の返礼品の紹介と比べるともう一目瞭然です。石岡市の写真は1枚こっきりなんです。写した写真をそのまま小さくアイコンにして、紹介のページでそれをクリックするとそれが大きくなるだけなんです。よくコマーシャルでカップラーメンのコマーシャルを作っている番組なんかがありますと、撮影する現場は温度を低くして、湯気が立ち上がって、そのラーメンがおいしそうに見える雰囲気醸し出している。いかにおいしく見せるか。果物でいけば、霧吹きで水滴をつけて、ぴかぴか光らせておいしく見せる。全くそういうところからかけ離れた写真が石岡市の場合には載っています。写真を替えるだけでも相当伸びるんじゃないかと思われるほどです。ぜひ工夫していただきたいと思います。そういう意味では伸び代はすばらしくあります。ぜひお願いしたいと思います。

次に、人材、資金の投入についてお尋ねいたします。

ここでも境町の例を紹介させていただくと、近年の干し芋人気に目をつけまして、2020年8月に干し芋を製造する地場産品研究開発施設としてS-L a bという施設をオープンさせています。狙いはまさに的中しまして、2億円の寄附が集まって、経費を差し引いても1億円が町の収入となったそうです。建設費、僅か1年で償却したというようなすばらしい展開をされています。ここは世界的な建築家の隈研吾さんが設計したということでも報道されて有名になったかと思えます。また、返礼品の拡充ということで、寄附者の選択肢は当然広がっていくわけですがけれども、返礼品で使用するコシヒカリ、これは町内の米農家から市場価格の約2倍相当で、玄米30キロ当たり1万円で町が買い取っているそうです。こうして農家を支援していった地域経済にも好循環を生み出していると。それもこれも積極的に投資を行っている、その投



資の見返りとして得た利益を分配しているということだと思います。石岡市でももう少しでいいですから人材、資金、戦略的に投入していただいて投資すべきだと思いますけれども、見解をお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） ご答弁申し上げます。人材、資金の投資といいますか、投入といいますか、例えば議員ご指摘のとおり、返礼品の開発において、全国的に見ますと、専門業者を例えば事業者へ委託したり、あるいは商品開発の専門の職員、人材を配置したり、あるいは開発支援のための補助金の交付などを行うとして実績を上げている自治体がございます。現在、本市といたしましては、こうした新たな商品開発は専門的には実施しておりませんが、本年度、多額の寄附を集めている先進地の視察なども予定しておりますので、こうした実績のある自治体の取組などを参考としながら、また、関係部局との連携を図りながら、人材や資金の投入方法についても調査してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） このふるさと納税の返礼品等の戦略的な展開ということであれば、面白い事例がありました。太陽光で発電した電力を返礼品にしているところもあります。これは群馬県の中条町です。いろいろ総務省も反発したようですが、最終的には認めたというようなことがネットで載っていました。

また、100億円の寄附を集める九州の自治体が提供するハンバーグの製造元は茨城県です。地場産品という縛りがありますが、そこでは地元のだしを作る会社さんがデミグラスソースの開発をして、茨城県産の肉、ハンバーグを取り寄せて、デミグラスソースと合わせて毎日食べられる商品として出したところ、全国的なヒットになったということで、100億円近い寄附を集めるに至っていると。100億円を集めれば、その40%近くが自主財源になります。これで市長が思い切りまちづくりもできるわけですから、ぜひ戦略的な展開をしていただきたいと思います。その財源を生かして町も大きく変わるかもしれません。

ここで市長にお尋ねしますけれども、これをやるためには人材と資金の投入なくしては絶対あり得ません。観光力アップでも質問しましたが、行動的な事業者の方々の協議会も積極的にその意見も取り入れて、商品開発、あるいは広報の展開、これらも含めて投資をしていくという考えがあるのか、ないのか、市長の考えをお尋ねします。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えいたします。議員、様々なご提案をいただきまして、本当にそういうことが必要かなと思ってございます。私も境町、あるいは大洗の町長などから様々なふうにやっているのなんていうことを聞きまして、そのとおりやっぱりすばらしいことをしているなと感じているところでございます。議員ご提案

の人材、あるいは投資につきましては、しっかりこれを行っていくように指示してまいりたいと思っております。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 最後の質問になります。企業版ふるさと納税の取組であります。

こちらにつきましては、昨日もやっぱり企業版ふるさと納税の質問がございましたが、私のほうはこの企業版ふるさと納税の取組の中で観光事業関連会社から企業版ふるさと納税をしていただいて、その社員派遣を実現してほしいというものであります。これは人材派遣型の企業版のふるさと納税というものらしいんですが、ぜひこの制度を取り入れて事業を展開できないかという思いの中で、まず制度概要をお尋ねします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。企業版ふるさと納税制度につきましては、石岡市に本社がない企業が石岡市に寄附をした場合に最大で寄附額の約9割が税から控除される制度でございますが、この中のメニューに人材派遣型がございます。人材派遣型の企業版ふるさと納税につきましては、寄附とともに企業の社員を本市に派遣していただき、本市や関係団体の職員として任用するとともに、その人件費に寄附を充てることができる制度でございます。また、人件費のほか、その社員が行う地方創生に関する事業にも充てることができます。これにより専門的知識、ノウハウを有する企業の人材を本市における地方創生事業に活用できることで地方創生のより一層の充実、強化を図ることができるというものでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 観光事業のプロの視点、ぜひ取り入れられれば石岡市にとっても大きなメリットになるのではないかと。今までやってきた観光行政が残念ながら受け身ということで、思うような効果が発揮できていないわけであります。眠っている資産の掘り起こし、あるいは返礼品の開発でも協力が考えられます。当然、寄附していただく企業側にとってもメリットがなければいけませんので、このメリット、あるいは石岡市のメリットの利害が一致するような事業展開を立案しなきゃいけません。これは石岡市側の責任です。この考えがあれば、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。人材派遣型の企業版ふるさと納税の活用につきましては、専門的知識や民間のノウハウを地方創生に資する事業に活用できることから、有用な制度であると考えてございます。議員からご提案がありました本市の観光資産の掘り起こしやふるさと納税の返礼品の開発を含め、本市の課題に対応できる人材の受入れが可能であると認識してございます。

一方、現在の企業版ふるさと納税制度が令和6年度までの時限措置であることや受入れスキームの確立、人材の配置、寄附を原則年度内に執行する必要があるなど、

様々な課題もございます。茨城県などの先進事例を参考に、前向きに調査、研究を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） 石岡市内は、観光のほうでも触れましたけれども、その資源はたくさんあるんですよ。観光事業者のほうも行政とタイアップして新たな事業展開というのは当然目指していると思います。そういったところでこの制度を利用することによって、昨日の答弁ですと1,000万、これまで企業版ふるさと納税が幾つか入っているという答弁をいただいたと思いますが、人が来ることによって1,000万じゃない以上の効果が多分発揮されると思うんです。優秀な方が来られれば、何千万、何億のアイデアを提供していただいて観光事業者と協力することによってその実効性をより早く獲得できる可能性もありますので、ぜひ実現に向けて動いていただければと思います。これはもう市長のトップセールスにお任せするしかないのかもしれませんが、これは市長にお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えいたします。今回、議員から様々ご指摘いただきましたふるさと応援寄附金や企業版ふるさと納税は、石岡市の魅力をPRし、当市を応援していただける貴重な機会となり、様々な事業を進める上で大変貴重な財源となるものと認識してございます。

この人材派遣型の企業版ふるさと納税は、企業の人材活用により地方創生の取組をより一層強化することができる大変すばらしい制度であると考えてございます。また、本市における課題解決のほか、民間のノウハウ取得にもつながり、さらに企業の人材育成にもつながるといった三方よしの期待感がありますので、企業の人材を受け入れるための体制づくりの調査、研究を進めると同時に、私としてもトップセールスで寄附の受入れに取り組んでまいりたいと考えてございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

〔8番・櫻井 茂君登壇〕

○8番（櫻井 茂君） どうぞよろしく申し上げます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。